

全幼研群馬支部会員の皆様

お世話になります。

まだ雪が残り、毎日、寒い日が続いております。

インフルエンザ警報も発令され、各地で猛威を振るっているようです。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、本日、今年度最終の研修会が開催されました。

最初45分間で、今年度に開催された2回の研修会についてのおさらいをしました。

その時には参加できなかったという先生方にとっては、その内容をかいつまんでではありますがお伝えできました。

また、その時の研修会に参加されていた先生方にとっては、復習になったと思います。

おさらいの後、AIミニインタビューを使って、関わっている子どもについてエピソードを語り合いました。

すごく、盛り上がっていました。

子どもたちの話をするときの先生方は、素敵ですよ。

今回、一緒にご参加いただいた群馬大学の音山先生（第1回の講師）のお話によると、回数を重ねる内に、短い時間でエピソードを語り合い、ストーリーを上げることが可能になるとのことです。

園でも、AIミニインタビューなどの対話型アプローチをどんどん活用していき、効率的かつ充実した園内研修を進めてください。

それぞれのペアで、語り合ったエピソードは、ペアで協働して作り上げたストーリーとして、配付した用紙に見える化されました。

見える化されたストーリーについてそれぞれ簡単に発表してもらって（ストーリーテリング）、全体で共有し、全員のストーリーに共通するテーマを考えました（ナラティブ・アナリシス）。

今回の場合は、共通のキーワードとしては、「（子どもの）思い」でした。

それを基に、AIミニインタビューでのストーリーを振り返り、「子どもの事実を丁寧に見ていく」ことが大切だということが、参加者全員で確認されました。

この、「子どもの事実」という言葉は、今年度の第1回（音山若穂先生）、第2回（霜田浩信先生）の研修会で共通に出てきた、重要な言葉でもあります。

平成30年度は、新教育要領、新保育指針、新教育・保育要領が実施されますが、まずは、「子どもの事実」にしっかりと目を向け、その姿から新要領や指針の内容が実現されているかを振り返っていきたいですね。

今回参加してくださった先生には、AIミニインタビューで、そういう考え方もあるのか、そういう方法もやってみたいなど、ストーリーを作る中で、たくさんの気づきが

生まれていたようです。

人数は少なかったのですが、今年度の研修が大いに活用された最終回の研修となりました。

3回とも参加できなかったという先生方、来年度の研修は、ぜひご参加ください。

2回は参加したんだけどなという先生方、来年度は皆勤賞をねらってみてはいかがでしょうか？

それでは、また来年度、お待ちしております。

1年間、ありがとうございました。

全幼研群馬支部研修部

zenyoken.gunma@gmail.com